

## 和歌山特集 明友産業株式会社

パラトルエンスルホン酸(PTSA)メーカーである明友産業は自然環境との共存を念頭に持続可能なモノづくりを推進していく。PTSAは芳香族スルホン酸の一種で、洗剤原料や触媒、硬化剤、医農薬原料など多種多様な用途を持つ。国内メーカーは限られており、同社・和歌山工場では粉体、水溶液、溶剤ブレンドなど用途に合わせ生産している。

とくに PTSA70%の水溶液「MT-70」は工程で廃液が出ない点が特徴で、同社が開発した。ユーザーの引き合いも多く、和歌山工場の水溶液タイプの主力製品になっている。同工場では今後も環境配慮を念頭に研究開発を進める方針で、昨秋稼働を開始した開発棟をフル活用していく。

自然環境との共存のなか環境保全活動にも力を入れる。その1つがソマノベース(和歌山県田辺市、奥川季花社長)が推進する「MODORINAE」(モドリナエ)活動への協力。防災の観点から森林再生と林業の活性化を目的に、植林用苗木を育て山に返す取り組みで、森林作りによって土砂災害などのリスクを減らすのみならず、林業の雇用創出と備長炭の原料となるウバメガシを育てることで地場産業の発展にもつながる。

明友産業も今年1月から本社で植林用苗木を11鉢、和歌山工場で22鉢を育て始め、ソマノベースのパートナー企業に加わった。明友産業では森林保全活動によってCO<sub>2</sub>削減に加え、インクルージブ防災の観点からSDG<sub>5</sub>への貢献も期待しており、自然にやさしいモノづくりをさらに進める方針。それと同時に、自治体や他企業との連携を通じ地域貢献に発展させることで、総合的な減災にもつながると期待する。一方で未来の命を守る取り組みとして、人間力を高める人材教育ツールとしても活用していく。「いずれ防災はコストでなく投資という考えが浸透していく」(西口香織代表取締役常務)と期待を込める。

